

近年多発する水稲の病害虫とその対策

いもち病

6月上旬頃より発生する。曇天が多いと多発し、多肥は発生を助長する。多発すると稲が委縮しずり込み症状を示す。また、いもち病は、葉・節・穂首・枝梗、もみなど、根以外のすべての部位で発病する。



紋枯病

6月中旬頃より発生し、高温年に多い。病斑は周辺部が褐色、内部が淡褐色の楕円形で、最初下部の葉鞘にでき上部に進展し、ひどい時は葉や稲も枯らす。



ニカメイチュウ

幼虫が茎の内部を食害し、芯枯れを引き起こす。年に2回発生し、6月下旬と8月中旬に被害が出る。発生が多い地域では育苗箱施薬し、本田で被害株率10%以上の場合は本田防除をする。



今後の対策（稲わらのすき込みと病害虫防除）

菌は被害わらで越冬して翌年の発生源となるので、いもち病が発生した圃場は、収穫後、速やかにすき込むことで、圃場で越冬する菌を抑制できます。

推奨殺菌剤

箱施用剤：デジタルコラトップアクタラ、スタウトダントツ、箱いり娘
本田殺菌剤：コラトップ（粒剤5・ジャンボP・豆つぶ）、ブラシン粉剤DL

菌株で越冬するので、早期に稲わらをすき込むことで、圃場内に残存する菌核を減少させます。

推奨殺菌剤

箱施用剤：箱いり娘
本田殺菌剤：リンバー粒剤

ニカメイチュウの越冬虫は、稲わらに潜んでいますので、収穫後に稲わらをすき込み、幼虫が越冬しないようにします。

推奨殺虫剤

箱施用剤：デジタルコラトップアクタラ、スタウトダントツ、箱いり娘、フェルテラ

注意

特に、近年、紋枯病による倒伏の被害が多くなっています。今年度多発した圃場では、菌核が越冬し、次年度も発生することが予測され、品質と収量に影響を及ぼすので注意が必要です。紋枯病に効果のある箱施用剤「箱いり娘」の散布や、予防・治療効果のあるリンバー粒剤による本田防除をしましょう。

今年度多発した圃場は、次年度以降も発生する可能性が高いので注意が必要です!!

平成30年秋の農作業安全月間実施中(10月31日まで)

農業従事者の高齢化、農業機械の大型化などに伴い、農作業が集中する春と秋の農繁期を中心に、毎年多くの農作業事故が発生しています。このため、秋の農繁期を迎えるにあたり、コンバインやトラクタの使用等に伴う基本操作ミスや安全確認不足による農作業事故の発生が多いので、特に気を付けましょう!!

